



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

**継続は力なり！**  
プロバスクラブの道に終わりなし  
生涯現役でクラブライフを楽しもう

編集・発行：情報委員会

### 第 268 回例会

日 時：平成 30 年 2 月 8 日 (木) 12:30～14:30

場 所：八王子エルシィ

出席者：54 名 出席率 88.5%

(会員総数 67 名 休会 6 名 欠席 7 名)

#### 会食とハッピーコイン披露

山口例会委員長の進行で会食に入り、馬場副会長からハッピーコイン 11 件の披露があった。

(4 ページに掲載)

#### 1. 開 会

山口例会委員長

第 268 回例会を開催します。

#### 2. 会 長 挨拶

武田会長



厳しい寒さですが、皆様お変わりありませんか。

先月は例会を欠席しまして、失礼いたしました。

さて、2017-2018 年度も船出してから、航海も半ばに達しました。今月から、クラブの一大事業である生涯学習サロンの開始です。ご案内の通りのカリキュラムとなっております。皆様のご協力をお願いいたします。

今年、年明けから天変地異、白根山噴火、日本列島の豪雪、今も北陸地方は 2 メートルを超す大豪雪。欧米では自然に挑戦し征服するという思想ですが、それとは全く異なる哲学で、自然には従順に従うという国民性が様々な知恵を生み出し、日本を強くしているのだと思います。この力を信じましょう。

インフルエンザが猛威を振るっております。予防に

十分ご留意下さい。

それではしばらくの時間、楽しく有意義にお過ごしいただければと思います。

#### 3. バースデーカード贈呈

武田会長より池田会員手作りのバースデーカードが 2 月生まれの会員に贈られました。



左から鈴木、根本洋子会員（武田会長）（敬称略）

#### 4. 卓 話

「消化器(咽頭・食道・胃)の働きと病気の治療法」

寺田 昌章

今月は、寺田会員から「消化器の働きと病気の治療法」と題し、元内視鏡開発者の立場から、ユーモアを交えてやさしく解説していただいた。なお、次回は 4 月に後編が予定されています。



(以下は、氏から提供いただいた資料をもとに情報委員の責任で箇条書きにしたもの)

- ・消化管と消化器の違い
- ・軟口蓋の働き、口腔の中のリンパ腺の働きと耳下

腺、顎下腺、舌下腺の唾液腺の働きについて

・咽喉（のど）では、食べ物が入ってくると気管の入口にある喉頭蓋が気管を塞ぎ、食べ物が気管に入らないようにしている仕組み

・おしゃべりや歌等で喉を鍛えると良い。

・経鼻内視鏡の説明と通常内視鏡で麻酔薬を飲む時のコツ（少しずつ右、左、中心と分けて飲むと良い）

・全ての癌に共通な、癌のクラス分類（癌かどうかの分類）、ステージ分類（癌の進行度の分類）

・癌が粘膜内に留まっているのは早期癌で内視鏡で根治できる。

・リンパ節の役割、癌に冒されていけばリンパ節は大きくなり、変形しているので手術時に直ぐ分かる。

・癌の基本的治療方針は、内視鏡、手術、放射線などを用いて局所で根治を目指す。

・少し大きい癌は化学療法や放射線療法で癌部を小さくしてから手術をする。化学療法では全身にある癌をも対象にする強い薬なので副作用がある。

・PET検査（Positron Emission Tomography）陽電子放射断層撮影について。非常に良い検査法だが放射線を使うので、数年に1回しか出来ない難点がある。

・食道の主な病気である逆流性食道炎、バレット食道、食道裂孔ヘルニア（横隔膜で大動脈、大静脈、食道が通る穴を裂孔という）や食道静脈瘤について

・日本で開発された粘膜切除術（癌部やバレット食道病変の治療法）

・胃の部位と胃での消化の仕組み（胃酸、胃液などが出る仕組みや胃内での消化の仕組み）や殺菌、嘔吐の仕組み

・胃の病気として胃酸過多、ポリープ、慢性胃炎と急性胃炎の違い

・日本人に多い癌で、近年胃がんの死亡率が激減、肺がんは死亡率が高いのでやっかいな癌、食物の欧米化で大腸癌が増えてきた。

・野菜のフォトケミカルが細胞の酸化を防ぎ癌予防に良いし、発酵食品（日本古来の味噌、醤油、納豆、ぬか漬、西洋のヨーグルト、チーズ）などは腸内環境を整えて健康に良い。

・ヘリコバクターピロリ菌について（経口感染、潜伏期間長い、胃炎、潰瘍、癌化の危険性、検査法、治療法）

・アニサキスについて

・何故胃酸（塩酸と同じPH1の強酸）に胃粘膜が消化されないのか。

・胃壁の構造（前出の胃底線から胃酸、胃液が出る仕組みと筋層の働き、筋層にある神経）等の説明があり、後編が楽しみ。

## 5. 幹事報告

### 内山幹事

本年度の予算執行状況は、現在までのところ予算範囲内で推移しておりますが、特に支出面については極力抑えた費用支出をするようご協力をいただいている状況です。

財政改善については、臨時理事会を開くなどして、協議を続けておりますが、改善案については今しばらくの猶予をいただきたいと存じます。

## 6. 各委員会活動報告

### (1) 例会委員会

山口委員長

例会の出席状況の報告があった。（既報）

### (2) 情報委員会

田中副委員長

プロバス日より267号をお届けします。今回は有泉副委員長が急遽担当してくださいました。情報委員会メンバーが又お一人減ることになりましたが、間もなく始まる「学習サロン」の分担も決め何とか期末までの体制が整いました。原稿が電子データで頂けるようになり、編集上助かっています。

### (3) 会員委員会

戸田委員長

特になし

### (4) 研修委員会

竹本委員長

特になし

### (5) 地域奉仕委員会

永井委員長

皆様のご協力で、一般サロン会員の応募者数は123名となりました。問題は野外サロン参加者数です。是非ご一考くださると同時に、お知り合いの方をお誘いくださるようお願いいたします。

本日、生涯学習サロンの登録料3000円を徴収しましたが、まだ出していない方がおられましたら、帰り迄にお支払いください。

### (6) 交流担当

浅川担当理事

2月から生涯学習サロンが始まります。多摩PC、日野PCからも大勢の方に参加していただきますので、よろしく願いいたします。

## (7) 宇宙の学校

下山リーダー

今月には「宇宙の学校」の平成 30 年度の計画についてお話しできると思っていましたが、東京工科大の予定以外まだ定まっていません。しかし会場は例年通りですのではほぼ昨年と同様な計画（6 月開始 11 月終了）になると思います。今年度もよろしくご協力ください。

## 7. 同好会からのお知らせ（特になし）

## 8. 「温故知新」

濱野 幸雄



私がこのクラブに入ったのは 23 年前の事だったと思う。当時、南ロータリーで活躍していた杉山さんに 40 年ぶりに会った。私は当時 50 才 10 ヶ月、規約に従えば入会の資格は無かったが、大

阪に本社を持つ会社を定年退職して、新しい八王子の生活に馴染むため、1 年余り色々な所に参加していた。地域奉仕活動に参加したり、テニスにも夢中になったり、いかに早く地域に溶け込んでいくかを考えていた時期であった。従って八王子ロータリークラブが創立 10 周年記念事業としてプロバスクラブを設立することに興味を持っていた。

知人の南ロータリークラブのメンバーの強力な薦めもあり、平成 7 年 5 月 25 日セミナーハウスで実施された第 1 回設立準備会に参加した。南ロータリー関係者からプロバス設立の意義、使命、趣旨説明があり、質疑応答、意見交換が行われた後、立川さんが「とにかく、進めてみましょうよ」と発言されたこともあり、次回参集することとなった。

第 2 回は早速、会員候補者を 2 組に分け、会則規約検討委員会（4 名）、拡大会員選考委員会（5 名）とし、大野聖二委員長（両委員会兼務）を中心に活動が始まった。私は会員委員長代理として暗中模索ではあったが会員としての相応しい資質、目標を決めて選考した。お陰様で会員の相互推薦、ロータリークラブの推薦もあり、順調に会員の増強が図れた。同時進行の会則運営細則に就いても会員の中に法律に詳しい専門家もおおり、6 月の委員会で会則の素案

が作成され、7 月 13 日の準備会で承認された。

8 月の第 4 回準備会では設立総会の計画が示され、委員会では会員 33 名の確定、設立総会の式次第、初代役員が決定された。平成 7 年 10 月 18 日（水）には、設立総会が開催され、同時に国際ロータリー第 2750 地区ガバナーを迎えての南 R C 全会員への創立披露が行われる運びとなった。

設立に至るまで非常にハードスケジュールであったが、当時の南ロータリークラブ大野聖二準備委員長、酢谷善元第一部門長の強力なリーダーシップと助言により順調に進展した。ここに日本で 25 番目、東京では 2 番目となるチャーター会員 33 名の東京八王子プロバスクラブが誕生した。正式なお披露目は平成 8 年 2 月八王子南ロータリークラブ創立 10 周年記念式典であり、それに合わせてバッジ、旗、プロバス賛歌の作成が急ピッチで進められた。

プロバスクラブのマークはクラブの連帯を深める会員としての自覚を強めるためのマークであり、ロータリークラブのような世界共通のものではない。ロータリーが提唱する意義とプロバスクラブの国際性をアピールすべく地球と歯車をあしらった図案を選考した。このマークによるプロバスクラブの存在意義を多く知って頂きたい。

プロバス賛歌について、一章はメンバーの連帯性、二章は地域の人々への知的貢献を、三章は地域に根付いたクラブ活動を表現している。歌の歌詞、作曲に就いても専門家の手が増えられ、今の趣旨、目的が織り込まれた立派なものが出来上がり、現在も毎例会時に歌われている。誠にこの会は多士済々であると感ずる。

## 9. プロバス賛歌斉唱

## 10. 閉会

馬場副会長



立春を過ぎましたがまだまだ寒い日が続いています。一方では日の出は早く日没は遅くなり「光の春」は着実に来ています。風邪に十分に注意され 22 日からの学習サロンには元気にご出席ください。

## ハッピーコイン

◆第2回東日本ブロック交流会の報告書を全国のプロバスの100クラブに送り全部の作業を終えました。剰余金 13,249 円はハッピーコインに入れました。クラブの皆様にご協力を賜り、まことに有難うございました。他クラブとの交流がどんどん広がることを期待しております。

立川 富美代

◆福井、石川県の降雪、胸痛みます。自然の威力には、かないませんね。

古川 純香

◆1月30日、77歳になりました。ふるさとは満州国、康德8年生まれ。祖国は日本国、昭和16年生まれです。

武田 洋一郎

◆先月の新年例会懇親会での下田会員の大道芸、手品の腕前に喝采、そして、田中会員のサクソ演奏の熱演に歌声喫茶の往時を偲びました。

杉山 友一

◆全快とはいかぬまでも、一応の生活ができるレベルまで快復。入院による足の弱くなったところをリハビリ中。

佐々木 正

◆大相撲初場所で甲府市出身の竜電関が敢闘賞を受賞、郷里の甲府では大いに盛り上がっています。私は今月24日に対面します。

飯田 富美子

◆入会以来、毎回ハッピーコインに参加しましたが、今回をもって卒業させていただきます。

野口 浩平

◆年齢は加わるばかり、何もお手伝い出来ていないことに反省。ご免なさい。いつか時間がとれる日をと念じています。

根本 洋子

◆手術後、3年経過し、総合検査の結果、転移もなく正常だとの診断でした。第一関門突破でほっとしています。

内山 雅之

◆生涯学習サロンが今月22日から始まります。一般の参加者も昨年を上回る勢いです。一生懸命頑張ります。皆さまのご協力宜しくお願いします。

持田 律三

◆生涯学習サロンの一般会員の参加申込者が昨年より20数名上回りました。フラダンスの梶原先生のお誘いによる新規の方が増えたことによるもので、うれしくもありがたいことです。

一瀬 明

## 寄稿

### 慶派の仏像に再会して

内山 雅之

平成29年9月26日から11月26日まで上野の東京国立博物館平成館で開催された「運慶展」を11月16日に拝観してきました。



平成館で行なわれる展示は、待ち時間が長いのが普通で、長時間待たされるかと思いましたが、平日のためか1時間ほど待たされたあと、入場することが出来ました。

運慶仏は現存数が少なく、世界的傑作と名高いのは、興福寺（奈良市）の北円堂に安置されている無著菩薩立像・世親菩薩立像であり、これをはじめとして、写実性と迫真性にあふれた作品ばかりだと言われています。愛知県岡崎市にある瀧山寺（たきさんじ）の聖観音菩薩立像は寺外では初公開。運慶仏の頂点である静岡県伊豆の国市にある願成就院の毘沙門天立像や神奈川県横須賀市にある浄楽寺の阿弥陀三尊像など5体は国内では42年ぶりの寺外公開となったものです。



現存する運慶作の仏像は全国に31体あるとされているそうです。今回の展示では、その内、

運慶が刻んだことが確実なものは35体、運慶ないしは慶派の作品と思われる仏像31体が一堂に集められておりました。（写真 左：世親菩薩立像 右：無著菩薩立像）

会場の中で、ひときわ大きく感じましたのは、奈良興福寺北円堂に安置されている無著・世親両菩薩立像(国宝)でした。像高 190cm を超える高さで、台座の上に乗せられておりましたので、更に高く感じ圧倒されました。この両菩薩像は、年に数回しか開扉されない北円堂の仏像ですから、拝観出来たことはラッキーとしか言えません。

1223年に亡くなる運慶が最晩年、鎌倉幕府の重要人物に請われて仏像を彫っていました。それが光明院の大威徳明王坐像(21.8cm。管理は金沢文庫)です。



有名な東大寺南大門の仁王像(吽形、高さ8.42m)は運慶作とされているが、運慶一派による造像でその全体の統括責任者が運慶であったのではないかとされています。その仁王像の約40分の1という、運慶作品の中で最も小さいものです。

(写真上：大威徳明王坐像)

### 展示の特徴

今回の「運慶展」での特色は、正面から拝観できるだけでなく、前後左右からゆっくり拝観できるのが良い点だと思いました。

通常ですと、各お寺さんで決められた場所でしか拝観できません。照明の暗い中で、ガラス越しに拝観するだけですから、背面がどのように刻まれているかなど細かく鑑賞することは出来ませんでした。それが今回の展示では全体像を鑑賞することが出来たのですから、至福でした。例に上げますと、興福寺が保管する康慶作の国宝天灯鬼・龍燈鬼両像の正面と裏面は次のように良く観察できました。

(龍燈鬼立像)

(天燈鬼立像)



もうひとつの特徴は同じ仏師の彫った仏像の大小を同時に拝観できたことです。お寺さんを訪ね、個々に仏像を拝観できたとしても、一人の仏師の彫像がすべて安置されている訳では有りませんから、貴重な経験でした。

### 出品作の内訳

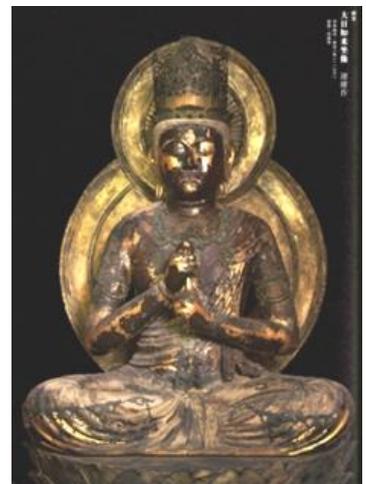
今回の出品された仏像は運慶だけでなく慶派の流れを汲む仏師たちの作品も出展されております。父親康慶の作品は、奈良興福寺の四天王立像、法相六祖坐像、静岡県瑞林寺の地藏菩薩坐像など11体が展示されております。また、運慶の長子湛慶の作としては、高知県の四国霊場第33番札所である雪隠寺に保管されている毘沙門天立像・吉祥天立像・善膩師童子立像が出品されています。運慶の第三子、康弁の作品は奈良興福寺のユーモラスな鬼の姿で表情、筋肉もいきいきとした天燈鬼立像・龍燈鬼立像が展示されておりました。このほか、作者名は正確には判断できませんが、慶派の作品と思われる仏像も出展されておりました。

### 中部・関東の仏像

運慶展では、奈良・京都・和歌山だけでなく、関東特に鎌倉幕府の置かれた鎌倉を中心とした神奈川県や栃木県の仏像が展示されておりました。

また、静岡県、愛知県からも出品されておりました。

このように幅広く運慶作品を集められたことは、未だかつて無く、一箇所では拝観できるなんて考えてもいませんでした。



### おわりに

私の印象に残ったのは、次の仏像でした。

現地拝観したにもかかわらず、はっきりと見ることが出来なかった奈良円成寺の大日如来坐像(写真：P5 右下)、この作品は運慶青年期の作、静岡県伊豆の国市にある願成就院の毘沙門天立像(写真：

左下)、運慶壮年期の作である和歌山県高野山の金剛峯寺の八大童子の内の一体、制多迦童子立像(写真:右下)でした。



慶派という聞きなれない言葉を使いましたが、これは、仏師の系図の言葉で、仏師のグループは院派、円派、慶派と三つの流れがあり、奈良仏師の流れを汲む康慶の時から使われ始めた流派の名称だといわれております。

院派、円派の仏像は眠るようなまなざしで、肩を落としたゆったりした、朝廷や貴族の好みを反映したおだやかな姿の仏像が多いが、慶派の仏像は、重量感や運動感にとんだ、しかも玉眼を使用した仏像の姿は、院派や円派の仏像とは異なる世界を開いたといえます。

康慶は息子運慶、同じく弟子として定覚、快慶、定慶等の仏師を従えていました。康慶の息子である運慶は長男湛慶、次男康運、三男康弁、四男康勝など7~8人の仏師がおり、総称して慶派の仏師たちと呼ばれていたようです。

一巡するのに1時間半ほどかかりましたが、個人的には満足できる「運慶展」であったと感じました。

関東地方にも、拝観できる仏像が多くありますので、暇をみつけて再び出掛けようかとも考えております。

(注) 写真は東京博物館発行「運慶」より転写

~~~~~

★ 去る2月22日(木)の開講式をもって、いよいよ第22回生涯学習サロンがスタートしました。今年も魅力溢れる講座が並んでいます。どうぞ充分にお楽しみを!

## 俳句同好会便り

私の一句~二月の句会から

河合 和郎

この冬は寒さが異常に厳しい。大雪も降った。インフルエンザも大流行の極み。「春よ来い、早やく来い」の念浅からぬものあり。さて、今月の一句は。

散り翔ちて埒いづこや寒雀 矢島 一雄

雀に向けた作者の温かい眼差しから生まれた一句。「ねぐらいづこや」と心を配る優しさがいい。

遠雷のごとく落ちたる軒の雪 池田ときえ

体験しないと解らないような轟音なのであろう。豪雪禍に喘ぐ雪国の労苦を思う。作者の生は雪国。

人影に慕ひ寄る鯉水温む 田中 信昭

春先の穏やかな光景を力まずに詠んで佳句。中七の「慕ひ寄る鯉」の措辞に動きがあつていい。

立春や心浮き立つ日の句 飯田富美子

寒さに耐えて春を迎えた喜びがあふれ出る一句。平易な表現がいい。「日の句」が上手い。秀句。

小雪背に飛び込む温泉親子猿 立川富美代

これぞ天国。テレビでお馴染みの光景。今や外国人にも人気のスポットとか。立派な観光資源でもある。

雪掻きに出る人まばら街老ゆる 馬場 征彦

大雪は後始末が大変。高齢化社会の一端を見るような警世の一句ともいえる。「街老いる」が深刻。

落葉踏む焚火の歌碑の残るまち 渋谷 文雄

若々しい感性に敬服。作者は童謡「焚き火」の歌碑の残る町に住む。俳句は若返りの妙薬かも。

若き僧寒の水垢離百箇日 山形 忠顯

市内の寺院での厳しい寒の行を一句に。「壮烈な仕儀に感銘し、力を貰っている」とは作者の弁。

諸事未了歳の所為にし初湯かな 東山 榮

俳諧味満点の一句。「諸事未了」が上手い。悟りの境地で初湯に浸かっている作者の姿が浮かぶ。

凍滝の真白にこもる静寂かな 河合 和郎

動きを止めた滝は、真っ白な氷に覆われ、深閑と静まり返っている。その静かさの深さを詠んだ。

編集後記：今月号も紙面編集上の都合により、予定した寄稿文等が掲載できず、大変申し訳ありませんでした。 有田 進治